

# 都市から農村へ運ぶ新しいエネルギー

## 祭りを媒体に変わるコミュニティ



祭りの度に『おかえり』と迎えてくれる地域の人々。なんとか祭りを残したいとマツリズムを立ち上げました。

2020年8月28日 2020年度第2回(通算142回)農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー【講師】一般社団法人マツリズム 代表理事 大原 学 氏を開催しました。

マツリズムとは都市部の若者や外国人が地元の祭の担い手に混ざって祭を体感できる ”Ma-tourism” (祭参加体験ツーリズム) です。

担い手が集まらなくて困っている等の祭り主催者と連携して、都市から祭りに興味を持つ、若者や外国人を、祭りを体験してもらうプログラムを提供しています。

これまでに、各地の受入地域と連携して、12の地域で約40回のツーリズムを企画し、のべ450人が参加しています。

部外者には、ハードルの高い地域の祭への参加体験が、日常では得られない気づきや地域のコアなファンが生まれ、祭りの地域外への認知力向上となり、また参加者からの「楽しかった」「また参加したい」という声が、担い手が祭を存続していくための新たな意欲になっています。

代表理事の大原学さんは、大学入学後の新しい環境に適應できず悩んでいた時に、サークルで『よさこい踊り』を始め、あるがままの自分を受け入れてもらったことをきっかけに、諦めかけていた社会との接点を見出す大学生活を送れるようになり、『自分は祭りに救われた』と現在の活動の原点になったと話します。



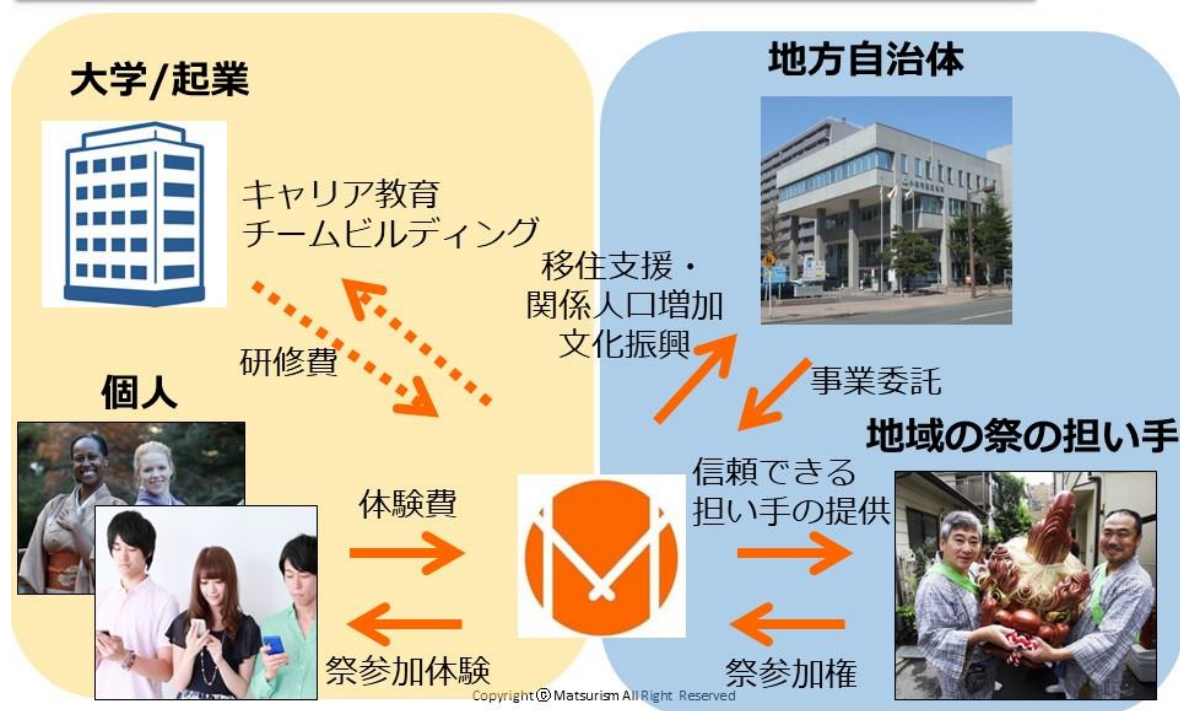
さらに、祭りを存続させていくために最も重要となる「ヒト」であるとして、祭り催行のために必要なマンパワーを提供し、祭りをはじめとする地域文化の体感プログラムの開発・提供、祭りや地域活性化に関する支援を行う取り組みを展開しています。

具体的には、

- 担い手が集まらなくて困っている。
- 継続できる祭りの運営ノウハウが知りたい。
- 移住者や地域の外部にも祭りを開いていきたい。
- 祭りが形骸化してしまわないようにしたい。
- 出身者が帰ってくるような祭りにしたい。
- 祭りの魅力を幅広い人に伝えたい。

等々の悩みを解決する活動です。

# ビジネスモデル（暫定版）



一般社団法人マツリズムは、全国各地に根付くお祭りを地域コミュニティの核と捉え、お祭りを通じて地縁を超えた人のつながりを生み出すことで人と町を元気にし、これらの活動を通じて、価値観の異なる人々が、互いの考え方を受け入れ互いに尊重し合う、多様性ある社会を創出することを目的として、2016年11月30日に発足しました。

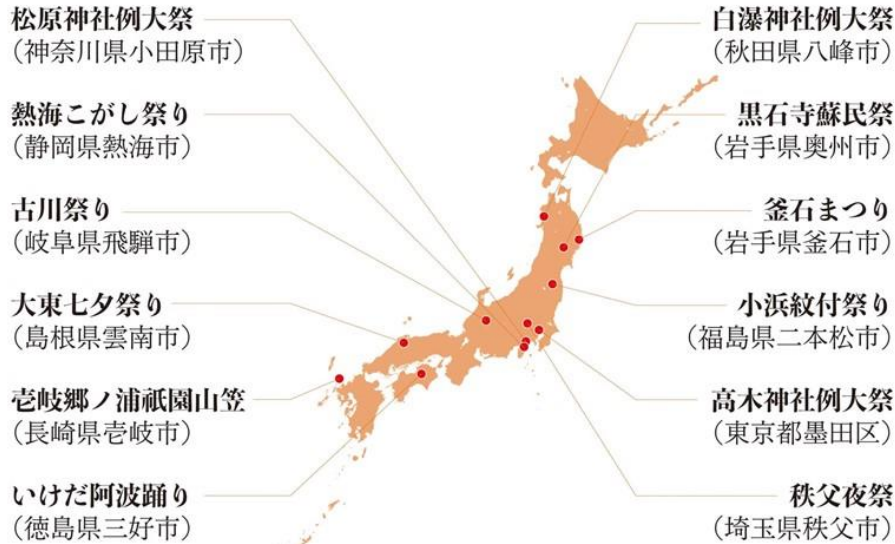
主な業務は、

- (1) 祭りをはじめとする地域文化の体感プログラムの開発と提供
- (2) 祭りに関する調査研究
- (3) 祭りの継承・発展のためのノウハウ・技能共有を目的とした研修の実施
- (4) 祭り・地域文化に関する効果的な情報発信
- (5) 祭り活性化のための企画提案・実行支援
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

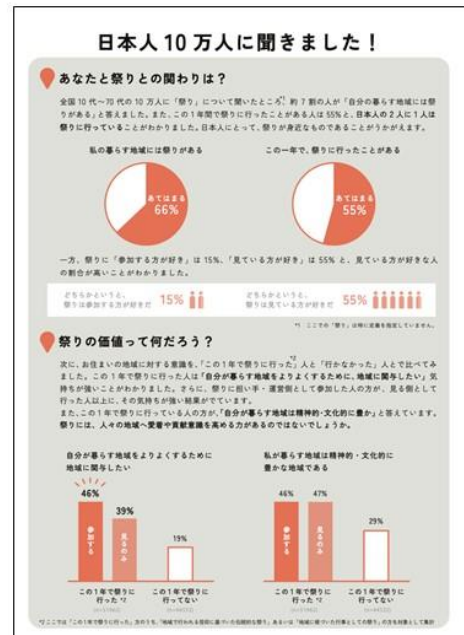
参加者からは、参加費を徴収

祭りにより異なりますが、参加者には、プログラム参加費として、5,000～30,000 円を徴収します。

# マツリズムは全国で活動中



## 調査研究



Copyright©Matsurism All Right Reserved

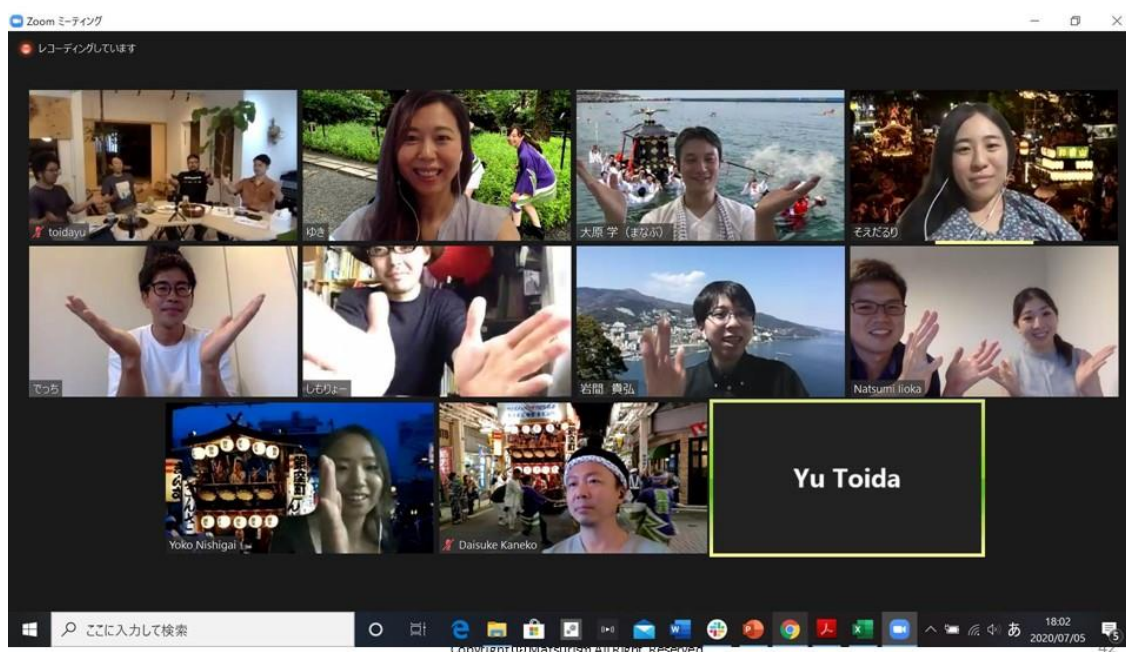
10

祭りを続けていくのも難しくなっています。全国アンケートの結果、40%の多くの団体が祭り存続への危機感を感じています。

人と人との関係が増々希薄になっている現代。

祭りの参加をきっかけに祭りの担い手の「熱さ（祭りへの熱い思い）」に触れて、その後の進路や仕事など人生が変わった若者も出ています。新型コロナウイルス感染症が広がり、各地の祭りが自粛で中止・延期となっています。こんな時だから、祭り関係者によるオンライン交流や将来に向けてコンテンツづくり（参加した祭りの動画作成・配信など）マツリズムの大原さんの活躍が目立っています。出来ないことを嘆くのではなく、できることを続け、リアルな体験への足慣らし熱い思いの人（地域）と人（都市）との交流は、地域の未来にとって重要なエネルギーとなるでしょう。

## できること1 オンラインで地域とつなげる



地域に存在する祭りを継続させるために、また祭りの魅力を高め交流のコンテンツとするためにも、大原さんのアイデアと行動力が光ります。

これから求められる「関係人口づくり」の究極のコンテンツは、「祭り」と思いました。各地の祭りの自粛が続いていますが、中止しながらも、一度でも参加した人は、オンラインでのやり取りなど次の機会に向けて交流がはじまっています。

祭りの共有経験は、大きな仲間意識を醸成するといえるでしょう。

祭りに参加したい都市の若者や担い手不足等により祭り存続に悩んでいる地域関係者は、マツリズムの大原さんに気軽に相談してみてください。

一般社団法人 マツリズム 相談ページ <https://www.maturism.com/contact/>  
メール：info@maturism.com

講師の大原 学さん、本セミナーにご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

開催セミナーの講義録画の配信サービスを検討（サービス内容等未定）しています。